

南京都

四季 つれづれ

中世の山城「鹿背山城跡」が、木津川市内で発見されたのは36年前である。近世の大坂城などとは違い、天守閣も石垣もない土造りの城である。築城時期は不明だが、城主は大和一国と相楽郡を支配した興福寺。最後の城主は松永弾正久秀と考えられる。

木津の文化財と緑を守る会会長

岩井 照芳⑤(完)



いわい・てるよし 1948年、相楽郡木津町(現・木津川市)生まれ。奈良県立大学商学部卒。78年、「木津の文化財と緑を守る会」創設。木津川市文化財保護審議会審議員。

念願の国指定史跡めどついた

当時この城は木や竹に覆われ、荒れ放題の山だった。城の勉強をするうちに、規模は山城国で一番を誇り、堅堀・土壘・畝状空堀群や堀切と多彩な防御施設がそろう、遺構の保存状態も良好な文化財的価値が高いものとわかった。

まったく無名なこの城を「世に出し、国指定の史跡にしたい」との思いが募り、「守る会」がボランティアで整備を始めたのは15年前である。

まず竹や木の伐採から始めた。次にルート板を設置

し、橋を架け、城を解説をした案内板を立て、「鹿背山城跡」と墨書した高さ2メートルの木製の碑も建立した。

整備が進むにつれNHKでも放映され、専門誌にも載り、見学者も増えた。入山ノートには「遺構は分かりやすく適度に緑を残したほどよい整備。守る会に感謝」。新潟県からの見学者の感想だった。

6年前には、木津川市も国史跡指定に必要な発掘調査に着手。そして今年3月の発掘調査委員会でのこと。最近文化庁の調査官が来られ、現地を見学。「城の整備が行き届いている」との発言があり、数年内に文化庁との間で史跡指定申請(意見具申)の協議に入る旨の報告があった。

ついに国指定史跡になるめどがついた。念願のかなう日が近付いた。